

ジ・アイコン

岡本 悠

豊は、歌を歌った、

尾崎豊の「I LOVE YOU」を...

新しい仕事場を紹介された

俺には、まだ、この仕事場がどんな場所かはわからない

田辺さんの説明を受けて

少しずつ、内情を理解していった...

俺には、疑問が2つあった

仕事場とは、恋をする場所なのか？

それとも、金を稼ぐ場所なのか？

俺は、ミーティングが苦手だった

それは、最後まで、慣れなかった...

俺は、すかさず、2人のスタッフさんに恋をした

あまりの苦しみに

社長に相談した

ただ 2人共、既に結婚していたことを知り、

俺は、いとも簡単に、戦いをやめた

はずだったが...

長川さんは、慣れた手つきで仕事をしていた

指示も的確だ

時折、独り言を喋っていたが

とびきり明るいわけでもないが

少しクールで

キャラクターみたいな顔をしていた

一方で、暗井さんは

とても、陽気な性格ではあったが、

結構、敏感な性質の人柄でもあり

優しさに包まれた人で

高潔な顔をしていた

豊の愛情表現とは、滑稽なものだった

見つめるである

慣れないころ

豊は、この2人のことを見つめてばかりいた

とりとめて、どちらが好きというわけでもなかったが

6-4、7-3、くらいで、長川さんかな っ、と思うくらいだった

豊の視線攻撃が活発になるころ

PTA が、立ち上がった

暗井さんが、ノイローゼになったので

問題が発覚すると、

やつぎばやに、

剛健さんの厳しいマークに出会うことになる

豊は、マルディーニのディフェンスのように

厳しいチェックを受けた

その頃、突然、また新しいスタッフさんが現れた

ゆかりさんである

ゆかりさんは、ポジティブリー・キャニオンのような

明るくて、美しい顔をしていた

また、豊の視線攻撃が始まるかに見えたが

会社は、すぐに感づき

社長は「ゆかりさんは、既婚者ですよ」と、囁いた

夕焼けが染まるころ

豊は公園のベンチにいた

ローラン・ボックの顔立ちの少年たちが

サッカーをしていた

ひとみ、との愛が終わるころ

俺は、結婚指輪をはめていた

次第に、神は、豊の視線攻撃を解除していった

豊は、窓際で外を眺めていた

すると、長川さんが話をしていた

「わたし、鳥が好きなんです」

豊は、愛の歌を唄った

また、しばらくして

大野さんというスタッフが加わった

豊は、ここでは

視線攻撃ではなく

会話によるコミュニケーションという手段を使った

まあ、それが、この世では、正常なのだが...

イチローがヒットを打つころ、大谷翔平はホームランをかつ飛ばした

いみじくも、豊の回りには次第に話相手ができる

豊が、ガラス板を拭いていると

長川さんや、暗井さん、ゆかりさん、大野さん…みんな

「ありがとうございます」

と言う

長川さんや、暗井さんにとっては、冤罪のはずの過去の視線攻撃も

次第に、緩やかなカーブを描き出していた

豊は、休み時間にも、暗井さんには

「お疲れさまです」

と、挨拶した

豊は、正月明けには、長川さんに

「今年もよろしくお願いします」

と、挨拶した

いたって、普通の日常が、送られていたし、

豊も豊で、会社では、違う女性を愛し始めていた

しかし、

度重なる、コンディション不能で、

豊の心は、疲れていた

豊は、長川さんから、

赤い運動靴がオシャレですね、と褒められて、ゴキゲンだった

視線と視線が飛び交う職場で

豊はナーバスになっていた

豊は、まんまと餌食になった

豊は、この日、まあ、ある程度、不満は抱えながらも

いつも通りに、仕事場に到着した

一定の会話を交わして

職場に就こうとしたが、

神が、暴れ出した

「豊、見てろ、今から、俺が見せるぞ」

そう言ったわけでも、聴こえたわけでもないが

豊は、不機嫌な態度で



場をしらけさせた

皆、どうしたのか、いったい？

という顔をしている

とにかく、終了の時間まで、身体が壊れるまで働いた

ジ・エンド

休み時間に長川さんを、追い抜いた残像だけがチラつく

帰り際、いつものように、

ゆかりさん、には、アイコンタクトして帰った

トナカイが、鳴いている

そうか、俺は、恋をする為に、

この職場に、来ていたのかもしれない

最後の謝肉祭に行くこともできず、

俺は、悶々と、これからのことを考えていた、

小説家になろう！

その生き方しか、見つからなかった

しばらくして、会社から、退社届けの紙や、工賃が届いた

若葉は言った

「給料送ってくるなんて、いい会社ね」

正直、その2、3万円が、俺の心を軽くした

なぜか、わからないが、なんとなく...

1度だけ、ロッカールームで、三角形ができあがった

俺、長川さん、暗井さんが、3人だけで、遭遇した

会話はなかった

俺が犯した、最初の罪と、最後の罪だけが、漂っていた...

豊は歌った

「長川さん、長川さん、あなたを愛してる」... そっと...

「完」